

## 住職の写真日記より【令和元年11月】

おかげさまで今年も無事に報恩講を勤めることができました。檀家さん以外の方々にも大勢ご協力をいただき、いい報恩講になりました。本州においてお参りできなかった子供たちも喜んでくれているようです。今年も残りわずか、年々一年が早く過ぎていく感じですね。



今年もボイスカウトが玄関にメッセージボードを作ってくれました。上手～。



5日～7日 報恩講、大変お疲れさまでした。

3日間の報恩講には、延べ450人がお参り。参詣数では昨年には及ばなかったものの、初めて足を運んで下さった方もいて、とてもうれしかったです。お世話になりました。



7日 千葉・仙台から手伝い

妹と義妹（弟の妻）も報恩講 京極・光寿寺報恩講。住職のために加勢。義妹は報恩講 である叔父は、今年大病をに来たのは22年振りだそうして、支えられながらも何です。とても助かりました。とか導師をつとめました。



12日 91歳です。

東京で勤めている娘は、仕事が休みの日にお参りに。ちゃんと懇意を納めたようで、証拠写真を送ってきました。



17日 BSお泊まり会

BSの子供たちは年に二度ほどお寺に泊まっての行事、朝のお参りの後、報恩講の意味についてお話をしました。



19日 本堂解体法要に

親戚寺院の早来・実成寺さんへ。昨年の大地震の被害で、やむなく本堂解体することになりました。お住職は涙ぐんでいました。

24日 ホームステイ終了  
マルティン君、5ヶ月間のお寺での生活を終えて、次のステイ先は、豪雪地の岩見沢へ。記念カードを進呈。

## 坊守の独り言

11月下旬、安平町早来の實成寺様の本堂解体法要にお参りさせていただきました。親戚寺院でもあり、坊守さんとは高校時代からの親友でもあります。

昨年の震災で大きな被害を受け、直後から常例法座、お彼岸やお盆、報恩講もお勤め出来ない状況でこの日を迎えた實成寺様。傷ついたご本尊をご安置して最後のお勤めを涙ながらに一同でお勤めさせていただきました。

千歳に戻り、一人暮らしのご婦人からお電話が。

「月参りですが、冬期間は札幌の娘のところに行くので出来ません。でもお参りしたいのでご本尊を札幌に持って行って構いませんか？」と。「もちろんいいですよ」と答えました。

手を合わせる気持ちの大切さ、尊さを深く感じた一日でした。お寺のカレンダーを一新しました。緑の数字はお寺の行事日。手を合わせに足を運んでいただけたら幸いです。

一年、ありがとうございました。